

平成26年度 上田市教育行政に係る事務の点検及び評価報告書

上田市教育行政評価懇話会

第1回 平成27年6月29日(月) 午前10時～午前12時

第2回 平成27年7月13日(月) 午後1時30分～午後3時30分

第3回 平成27年7月31日(金) 午前10時～午前12時

上田市教育委員会

目 次

趣旨		1
上田市教育行政評価懇話会		1
評価の方法		2
評価の結果及び懇話会の提言内容等		
1 上田市教育支援プランの推進		
学力向上と不登校対策	学校教育課	3
児童生徒一人ひとりに応じた指導体制の充実	学校教育課	4
学校給食に関する基本方針の検討	教育総務課	5
地域に信頼され、地域に開かれた学校づくり	学校教育課	6
2 学校施設の耐震化推進と教育環境の整備		
小中学校施設耐震化事業	教育総務課	7
小中学校施設整備事業	教育総務課	9
学校施設設備の充実	学校教育課	10
3 新たな文化創造を育む環境づくりと文化遺産の継承		
市民協働による文化事業の推進	文化振興課	11
子どもたちの芸術鑑賞・体験機会の充実	文化振興課	12
史跡等整備事業	文化振興課	13
博物館における学習機会の提供	博物館	14
4 生涯学習の推進による地域の教育力の醸成		
社会教育施設整備事業	生涯学習課	15
地域が学校を支援する事業	生涯学習課	16
青少年育成関係団体の連携	生涯学習課	17
人権同和教育推進事業	生涯学習課	18
5 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備		
生涯スポーツ活動の推進	スポーツ推進課	19
スポーツ施設整備基本構想策定事業	スポーツ推進課	20

趣旨

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」において、各教育委員会は効果的な教育行政の推進を図り、住民への説明責任を果たしていくため、教育に関する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を毎年行うことになりました。

そのため、法改正の趣旨に鑑み、平成20年度から目標管理制度において設定した教育委員会の重点事業について、自己点検及び自己評価を行い、上田市教育行政評価懇話会において、有識者から提言をいただいています。これらの評価の結果や懇話会における委員からの意見は、今後の教育に関する事業の改善に役立てていきます。

上田市教育行政評価懇話会

平成26年度重点事業の評価の結果等について、有識者からの意見を聞くため、本年度は、6月29日、7月13日、7月31日の3回にわたって上田市教育行政評価懇話会を開催しました。

なお、委員には、上田市の教育に携わった経験があり、専門的な観点からの意見を期待できる次の7人に就任を依頼しました。

(敬称略)

氏名	略歴	備考
廣川 岩男	民生児童委員、武石小学校評議員、元長野県教育委員会主幹指導主事、元教育参事、元清明小学校長	座長
松本 千恵子	元上田教育事務所 学校教育課長、元学校教育課指導主事、元北小学校長	副座長
片桐 恭子	第三中学校評議員、上田地区更生保護サポートセンター 企画調整保護司	
児玉 卓文	上田市博物館協議会委員、元長野県立歴史館文献史料課長、元信濃国分寺資料館社会教育指導員	
春原 尚江	民生児童委員、元上田市社会教育委員、元中央公民館運営審議会委員、元木町分館長	
関 和弘	上田市スポーツ推進委員会 副会長	
早坂 淳	長野大学社会福祉学部社会福祉学科准教授、上田市社会教育委員	

評価の方法

平成26年度重点事業の年度末における目標の達成状況について、AからDまでの4段階による評価を行いました。

【総合評価】

ランク	内 容
A	目標を上回る成果があった。
B	目標どおりの成果があった。
C	目標未達成の部分があった。
D	全ての目標が未達成であった。

評価の結果及び懇話会の提言内容等

平成26年度重点事業の評価の結果及びこれに対する懇話会の提言内容等は、事業評価シートに記載のとおりです。

平成26年度 事業評価シート

1 -

事業名	学力向上と不登校対策	担当課	学校教育課
-----	------------	-----	-------

当初目標	「学力の向上」と「不登校児童生徒対策」の取組として、中学校5校に専科教員を配置し、中学校教員が小学校に出向いて授業を行うことで、中学進学不安解消と学習意欲の向上を図ります。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	小中連携教員の配置(5人)		10,825
	児童アンケートの実施(2回)		0
目標の達成状況	<p>数学の専科教員を中学校に5人配置し、中学校の教員が同じ中学校区の小学校10校へ出向き授業を実施しました。また、専科教員を配置していない中学校でも小学校へ出向き授業を行いました。</p> <p>アンケート調査では、領域別で見ると、昨年と同様の傾向がみられますが、特に「文字と数式の学習」で好きとする割合が大きく増加しました。このことから、中学校の教員や担任によるきめ細かい丁寧な指導が児童の算数への興味意欲を高め、熱心な学習の取組につながったと考えます。</p> <p>中学校の教員の授業を受けることにより、中学校の様子を聞くことや知っている先生が中学校にいる安心感を持つことができ、児童の中学進学への不安軽減につながっていると考えます。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	中学校の教員が小学校に出向き授業を行う取組は4年目となり、一定の成果を上げていると考えます。一定の制約はありますが、専科教員配置校以外の中学校においても、小中連携事業を進める必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>アンケート調査において、「文字と数式の学習」で好きとする割合が大きく増加したということである。好きという意欲の部分が高まったことは、大きな成果として評価します。</p> <p>中学校教員が小学校へ出向き授業を行うことにより、児童が中学校の様子を知ることができ、「安心感」を持つことができたということは非常に大きいと思います。</p> <p>また、中学校においては、来年度に入学する児童の実態を把握することもでき、小中の教員にとっても、互いに交流を図ることができることなどから、非常に意義のある取組みであると評価します。</p> <p>小中連携教員の配置は、県内においても先進的な取組であり、この取組が効果的に継続され、また充実されることを期待します。</p> <p>不登校対策は、総合的な政策をうまく組み合わせる必要があります。この取組を正当に評価するためにも、タイトルに「不登校対策」を入れない方が良いのではないかと考えます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>継続して事業を行うことにより、小中の教員が連携しながら授業内容を検証し、指導方法を工夫した成果が表れてきたと考えます。今後もこの取組を通じて、児童の算数の学力と学習意欲の向上を図ります。</p> <p>児童が中学校に関する情報を得たり、面識がある先生が中学校にいるという安心感から、中学進学へのスムーズな流れができると考えます。また、中学校の教員が授業中の児童の様子を見ることができ、児童に関する情報を得ることにより、学級編制や中学校進学後の個別支援にも役立てています。</p> <p>「学力向上」と「不登校対策」はそれぞれ重要な項目であり、項目別に掲載するなどの見直しを検討します。</p>	
今後の方針等	「学力向上」と「中1ギャップ解消」の課題に取り組むため、小中連携教員を継続して配置します。小中学校の教職員が教材研究や指導法を共同で検討することを通じて、授業改善を進めるとともに、これらの成果を各地区のブロック研修会等を通じて、他の小中学校へも拡大していきます。		

平成26年度 事業評価シート

1 -

事業名	児童生徒一人ひとりに応じた指導体制の充実	担当課	学校教育課
-----	----------------------	-----	-------

当初目標	保育士が小学校を訪問し、授業参観等を通じて教員との交流を図り、新入時の受け入れについて情報交換を行います(4校)。また、小学校入学後の一定期間は、新入生が学校生活にスムーズに移行するための特別な授業計画「スタートカリキュラム」を作成し、小1プログラムの解消を図ります。 心の教室相談員29人と特別支援教育支援員54人を配置し、児童生徒を支援します。スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを各1人配置し、相談支援体制の充実を図ります。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	心の教室相談員事業		24,705
	特別支援教育支援員事業		44,440
	スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー活用事業		992
	不登校児童生徒に関する研修会(2回)		70
保育士を小学校に派遣(幼保小の連携)		0	
目標の達成状況	1学期において、4小学校で保育士と教員が交流及び情報交換を行ったことにより、必要な支援や教育等の共通理解が得られてきました。 不登校等の対応のため、心の教室相談員やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを配置し、児童生徒や保護者の悩みの解消に向けた支援を進め、登校渋りがみられる場合には、家庭訪問を行うなど登校ができるよう支援し、さまざまな問題を抱えた児童生徒に対しては、問題が解消できるよう関係機関と連携し支援を行いました。 特別な支援を必要とする児童生徒が増えていることから、「特別支援教育支援員」を配置し、学校生活が安全に安心して送れるよう個に応じた支援を行いました。		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	子どもの成長・発達段階に応じた支援や教育が行えるよう、保育士と教員による情報交換等を継続的に実施していく必要があります。 インクルーシブ教育の構築が求められている中、学校において配慮が必要な児童生徒が増加傾向にあります。個の特性に応じてタブレット端末を使用するなど、支援体制を整え継続した支援を行っていく必要があります。また、家庭や児童生徒の課題が複雑化しており、解決が難しい問題もあるが、関係機関等と一層の連携を図り、支援していく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	スクールソーシャルワーカーを市費で配置しているのは長野県内では、長野市と上田市程度であり、このような取組をしていることを評価します。 児童生徒の不登校にはさまざまな原因がある。児童生徒が相談しやすい環境、そして本当の不登校の理由を把握できるような体制づくりを望みます。 また、相談の初期段階の対応が重要であり、このような視点を研修に取り入れてほしい。 不登校ではないが、その傾向がある児童・生徒が、心の相談室やスクールカウンセラーと関わることにより、クラスに戻れるような支援を期待します。 「スタートカリキュラム」については、新しい取組ではなく、今まで続けてきた取組を充実させる方が効果的であると考えます。	
意見に対する考え方		スクールソーシャルワーカーは「定住自立圏共生ビジョン」により、上田市、東御市、長和町及び青木村に配置しています。県研修会への参加、教育相談所指導主事のサポートなどを通じ資質の向上を図ります。 初期対応、相談しやすい環境づくりは、大切な視点であり日々意識する必要があります。専門家を招いての研修会を開催し、各校の取り組みを支援していきます。 心の教室相談員、スクールカウンセラーが学校と情報共有しながら、不登校傾向にある児童・生徒の支援を行います。 幼保小連携事業の一つである「スタートカリキュラム」は、各校が工夫して取り組んでいます。取り組み状況を共有化することで更に事業の充実を図ります。	
今後の方針等		幼保小の円滑な接続を図るため、保育士を小学校に派遣し、教員との交流を図り、新入生への支援を行います。 不登校や特別に配慮が必要な児童生徒を支援するため、「心の教室相談員」及び「特別支援教育支援員」を引き続き配置します。幼児期から継続した支援体制を整え、保育・福祉など関係機関等と連携しきめ細やかな支援に努めます。	

平成26年度 事業評価シート

1 -

事業名	学校給食に関する基本方針の検討	担当課	教育総務課
当初目標	<p>安全・安心な学校給食を引き続き提供することができ、学校における食育や適正な運営を更に推進していくため、学校給食運営審議会からの答申などを踏まえ、今後の方針について検討します。</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	学校給食の現状把握と課題の洗い出し	0	
	学校給食に関する基本方針の検討	0	
目標の達成状況	<p>学校給食運営審議会からの答申を受け、学校給食に関する基本的な計画を策定するために設置した庁内検討機関などでの検討経過について、事務局内で情報共有を図りました。その上で、学校給食の現状把握と調理方式や運営体制に係る課題を洗い出し、学校給食従事者から意見聴取するなどの検討を重ね、教育委員会事務局としての基本方針（案）を作成しました。</p>		
総合評価		C	
今後の課題等	<p>学校給食が引き続き児童生徒の育成に資するよう、上田市における歴史的経過や現状を十分踏まえ、食育面、安全面及び経費面などの総合的な見地から基本方針を策定することが必要です。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>評価がCということである。複雑な要因もあり、かなり難しい課題であると思うが、早めに判断ができることを期待します。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	意見に対する考え方	<p>教育委員会事務局の基本方針（案）を原案とし、総合的な観点から、学校給食運営の基本的な考え方を、まとめたいと考えております。</p>	
今後の方針等	<p>教育委員会事務局の基本方針（案）を原案とし、上田市の学校給食に関する基本方針の策定を目指します。</p>		

平成26年度 事業評価シート

1 -

事業名	地域に信頼され、地域に開かれた学校づくり	担当課	学校教育課
-----	----------------------	-----	-------

当初目標	学校と地域の体制が整ったところからコミュニティ・スクールの導入を進めます。(2校) 特別な支援が必要な小学校低学年の児童に対し、ボランティアによる学習や生活面を支援する活動に取り組みます。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	広報うえだやホームページへの記事の掲載による事業の周知		0
	学校を支援するボランティアを小学校へ派遣		5
	特色ある学校づくり交付金		1,000
目標の達成状況	コミュニティ・スクールに指定した浦里小学校や川西小学校では、多くの地域の方が学校の活動に関わることにより、学校の状況を理解した上で、学校・家庭・地域が共通の認識を持って、子どもの成長を支えるさまざまな取組を実践しました。このことは、子どもたちが地域に関心を持ち、ふるさとへの愛着心を持つことにつながっていくものと考えます。 特別な支援が必要な小学校低学年の児童を支援するため、学校を支援するボランティア28人を11校へ派遣し、学習や生活面で安心して学校生活が送れるよう、個に応じた支援を行いました。		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	持続可能な仕組を構築していくためには、学校支援ボランティアを日常的かつ積極的に受け入れる必要があります。ボランティアの受け入れについては、コミュニティ・スクールに限らず、信州型コミュニティ・スクールや公民館と連携したボランティアの幅広い活用など、定期的に地域が学校の活動に関わる取組を進める必要があります。 特別な支援が必要な児童が増加傾向にあることから、学校におけるボランティアの希望者を増やしていく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	当初は、ボランティアの受入体制を充実するということからはじめたが、受入体制が整いはじめたら、地域の理解、啓発が大事であると考えます。 長野県独自の「信州型コミュニティスクール」という取組も大事にしてほしいが、学校の意見や地域の状況を十分考慮したうえで、進められることを願います。 ボランティアについては、学校側は地域の人々の支援を求めているし、ボランティアに参加した人も参加することで、充実した時間を過ごしているようである。ボランティアの人数を増やすためには、学校とボランティアに参加する人の両方と話ができるような、地域に信頼された人材の発掘が必要であると考えます。 学校とボランティアの双方の意見を取り入れ、よい連携のもとに、この取組が進められることを期待します。	
今後の方針等	意見に対する考え方	学校支援ボランティアについては、学校とボランティアをつなぐコーディネーター役が存在しないため、双方の調整が課題であると認識しています。またこの間、学社連携事業として公民館を中心とした学校支援ボランティアの普及が進んできました。窓口の一本化も検討課題として、ボランティア活動を更に充実させていきます。 コミュニティ・スクールについては、長野県の方針に沿い、「信州型コミュニティスクール」の導入を推進してまいります。	
今後の方針等	「開かれた学校づくり」、「地域とともにある学校づくり」については、それぞれの地域や学校の実情に応じた方法で、引き続き積極的に進めます。 学校を支援するボランティアについては、すべての学校で活用できているが、読み聞かせやドリル学習等の支援や特別な支援が必要な児童の生活面の指導など、学校の活動に定期的に関わる取組を増やします。		

平成26年度 事業評価シート

2 -

事業名	小中学校施設耐震化事業	担当課	教育総務課
当初目標	<p>耐震化未対応の建物について、早急に改築・改修を進めます。</p> <p>第二中学校改築事業（西・北・南棟第2期工事） 東塩田小学校屋内運動場改築事業（本体工事） 川西小学校屋内運動場改築事業（本体工事）管理棟改築事業（実施設計） 本原小学校管理教室棟改築事業（実施設計・仮設校舎建設工事・アスベスト除去・校舎解体工事） 第三中学校北校舎・昇降口・屋内運動場改築事業（実施設計・仮設校舎建設工事） 第三中学校南校舎耐震補強・大規模改造事業（実施設計・仮設校舎建設第1期工事） 第四中学校屋内運動場改築事業（実施設計） 屋内運動場の天井材、照明器具、窓ガラスなどの非構造部材の耐震化（11校）を実施します。</p> <p>耐震化率目標：校舎等 95.7%、非構造部材 94.4%</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	第二中学校改築事業（西・北・南棟第2期工事）	2,016,338	
	東塩田小学校屋内運動場改築事業（本体工事）	494,902	
	川西小学校屋内運動場改築事業（本体工事）管理棟改築事業（実施設計）	275,328	
	本原小学校管理教室棟改築事業（実施設計・仮設校舎建設工事・アスベスト除去・旧校舎解体工事）	317,067	
	第三中学校北校舎・昇降口・屋内運動場改築事業（実施設計・仮設校舎建設第1期工事）	120,548	
	第三中学校南校舎耐震補強・大規模改造事業（実施設計・仮設校舎建設第1期工事）	81,454	
	第四中学校屋内運動場改築事業（実施設計）	34,560	
	屋内運動場の非構造部材耐震化工事（11校11棟）	57,696	
	27年度計画の小学校屋内運動場中学校武道場非構造部材耐震化の実実施設計（10校10棟）	4,689	
目標の達成状況	<p>第二中学校改築事業第2期工事は3月に竣工しました。 東塩田小学校屋内運動場改築工事は3月に竣工しました。 川西小学校屋内運動場改築工事は、合併浄化槽の撤去及び下水道工事に不測の時間を要し、一部事業費を27年度に繰り越しました。管理棟改築事業の実実施設計業務は3月に完了しました。 本原小学校管理教室棟改築事業の実実施設計業務及び仮設校舎建設工事は3月に完了しました。アスベスト除去・旧校舎解体工事は、仮設校舎の設計と建設に不測の時間を要し、一部事業費を27年度に繰り越しました。 第三中学校北校舎・昇降口棟・屋内運動場改築事業の実実施設計業務は3月に完了しました。2か年事業として実施している仮設校舎建設第1期工事は、大型車進入経路について近隣の方との調整に不測の時間を要し、一部事業費を27年度に繰り越しました。 第三中学校南校舎耐震補強・大規模改造の実実施設計は3月に完了しました。 第四中学校屋内運動場改築事業の実実施設計業務は3月に完了しました。 屋内運動場非構造部材の耐震化工事は1月に完了しました。（南小、西内小、丸子北小、塩川小、本原小、菅平小、第一中、第六中、丸子中、真田中、菅平中11校11棟） ・年度末耐震化率：95.2%（川西小屋体が繰越となったため目標は達成できませんでした。） 27年度に施行予定としていた小学校屋内運動場及び中学校武道場非構造部材耐震化工事の実実施設計は、補正予算により対応し3月に完了しました。（城下小、浦里小、長小、東小、西小、塩尻小、神川小、塩田西小、第六中、真田中 10校10棟） ・年度末耐震化率：71.4%（国の基準が変更されたため年度当初の耐震化率より低下しました。）</p>		

総合評価		B
今後の課題等	<p>早期に学校施設の耐震化を完了するよう求められていることから、耐震化の必要な校舎等については改築・改修を早急に進めていく必要があります。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>現在、改築事業や耐震化事業など、多くの事業を進めているが、今後も計画に沿って進められることを期待します。</p>
	意見に対する考え方	<p>小中学校施設改築事業及び耐震化事業等については、計画的に整備を進めていきます。今後、老朽校舎等が増えてくることから、改築だけではなく、長寿命化工事も組み合わせて経費節減を図ることが必要と考えています。</p>
今後の方針等	<p>学校施設の建物については、平成28年度までに耐震化が完了するよう進めます。また、屋内運動場の非構造部材耐震化については、平成27年度の完了を目指して進めていきます。</p>	

平成26年度 事業評価シート

2 -

事業名	小中学校施設整備事業	担当課	教育総務課
当初目標	<p>小中学校施設の計画的な整備を進め、児童生徒の教育環境の更なる向上を図ります。</p> <p>学校との連絡を密にし、緊急性や安全性を考慮しながら、営繕工事等を計画的に実施し、安全で快適な教育環境の整備を図ります。</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	清明小学校プール改築事業（本体工事、外構工事）	112,160	
	小中学校施設営繕事業	141,556	
目標の達成状況	<p>清明小学校プール改築工事は26年8月に竣工し、外構工事は27年3月に竣工しました。</p> <p>学校施設の老朽箇所・故障箇所等の日常的な営繕工事を行い、教育環境の充実に努めました。</p>		
総合評価		B	
今後の課題等	<p>計画的かつ早急に施設整備を行う必要があります。また、大規模な営繕工事は夏休みに集中するため、計画的に実施する必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会 委員からの意見	<p>改築事業については、市内には36の学校があり、3年に1校改築しても100年以上かかり、多額の予算もかかる。効果的な営繕の実施などにより、計画的な施設整備を期待します。</p> <p>学校施設の老朽箇所などの日常的な営繕工事については、各学校からの要望が多いと思われるが、必要性・緊急性に基づき実施をし、教育環境の維持・充実に努められることを期待します。</p>		
意見に対する考え方	<p>耐震化の済んだ建物以外の改築事業については、実施計画に位置付け、計画的に整備していくとともに、効果的に営繕を実施していきます。なお、学校を一か所整備するのに4、5年の期間を要してしまうため、市内学校数を考慮すると、毎年複数校並列で事業実施していく必要があります。</p> <p>学校施設の営繕工事については、各学校で優先順位をつけていただいた要望に基づき、必要性・緊急性を勘案し実施していきます。</p>		
今後の方針等	<p>大規模な改築改修をはじめ一般の営繕工事についても、学校との連絡を密にし、緊急性や安全性を最優先に考えながら計画的に実施し、安全で快適な教育環境の整備に努めます。</p>		

平成26年度 事業評価シート

2 -

事業名	学校施設設備の充実	担当課	学校教育課
当初目標	夏の暑さ対策として、未設置である19校の保健室にエアコンを設置します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	未設置である19の小中学校の保健室にエアコンを設置	5,508	
目標の達成状況	未設置であった19校の保健室にエアコンを設置したことにより、27年度中に改築予定の4校を除くすべての学校の保健室にエアコンを設置することができ、暑い時期に保健室を利用する児童生徒が休養しやすい環境を整えることができました。		
総合評価	A		
今後の課題等	児童生徒の教育環境の向上を図るため、学校施設設備の充実を図っていく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	暑い時期に体調不良などにより保健室を利用する児童・生徒にとって、保健室のエアコン設置は大変ありがたいと思う。保健室のエアコン設置により、児童・生徒の環境が改善されたことを評価します。 保健室にエアコンを設置するだけでも、学校数が多いため、多額な費用がかかる。各学校からの要望が多いと思われるが、必要性・緊急性を考慮して優先順位を決めて進めてほしい。	
	意見に対する考え方	今後も必要性や緊急性を考慮して、学校施設や設備の充実に努めます。	
今後の方針等	今後も必要性や緊急性を考慮して、学校施設や設備の充実に努めます。		

平成26年度 事業評価シート

3 -

事業名	市民協働による文化事業の推進	担当課	文化振興課
-----	----------------	-----	-------

当初目標	文化の薫るまちづくりに向け、文化団体との連携を図るとともに、市民と協働し文化事業を推進します。 文化団体との意見交換（1回以上） 上田城跡能（11月開催） シリーズ文化講演会の開催（上田・丸子・真田の3地域）		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	上田市文化芸術協会との懇談会（11月）		0
	上田城跡能の開催（11月）		1,500
	シリーズ文化講演会の開催（丸子(12月)・上田(3月)・真田(3月)）		1,200
	うえだ城下町映画祭の開催（11月）		2,500
目標の達成状況	上田市文化芸術協会、市及び教育委員会との懇談会の開催により、交流文化芸術センター利用における課題の共有化が図られたほか、学校や地域への活動展開等、積極的な提案がなされ、今後の上田市文化芸術協会の自立的発展と市との連携と協力体制が強化されました。また、今後の文化団体等との連携・協力体制を築くことができました。 上田城跡能はサントミュージアム開館記念事業として開催し、約1,200人（対前年で約300人増）の入場者が能・狂言を鑑賞しました。 「シリーズ文化講演会」は、上田・丸子・真田各地区の文化団体の連携と協力により開催し、合計約1,070人（対前年で約470人増）が参加しました。「うえだ城下町映画祭」は市民による実行委員会が主体となって開催し、延べ1,700人（対前年で約100人増）が参加しました。このように市民協働のもと文化芸術活動の振興を図りました。 また、上記事業の運営主体である団体や個人は大変意欲的に取り組んでおり、参加者アンケートでは、満足とする回答の割合が9割以上となりました。		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	市民が主体的に広く文化芸術活動に関わり、継続的に発展していくような環境・仕組づくりを構築するとともに、地域の歴史・風土に密着した文化事業を展開していく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	サントミュージアムの開館により、各種事業の参加者が増えており、そして満足度も高まっているというこである。これが継続するよう取り組んでほしい。 サントミュージアムでの発表を目標に、従来にも増して、意欲的な取組を行う団体もある。このような気持ちが継続するように、行政でバックアップできることを期待します。	
	意見に対する考え方	サントミュージアムの開館効果を利用し、また、事業内容の充実を図りつつ、今後も市民団体との協働による各種事業を継続実施してまいります。 「ハレ舞台」での発表を目標にした日頃の活動が重要だと考えますので、今後も環境整備等の支援をしてまいります。	
今後の方針等	若い世代による新しい活動の芽も大切に育て、市民協働のもと交流文化芸術センター・市立美術館をはじめとする市内文化施設の利用促進が図られる環境づくりと、文化活動の担い手がさらに育成されるよう支援します。		

平成26年度 事業評価シート

3 -

事業名	子どもたちの芸術鑑賞・体験機会の充実	担当課	文化振興課
-----	--------------------	-----	-------

当初目標	市民や文化団体と連携し、子どもたちの芸術鑑賞・体験機会・育成機会の充実を図ります。 小中学校への芸術家派遣事業 4回実施 能楽講座 1回実施 子ども文化講座 1回実施 子ども文化祭 1回実施 児童のミュージカル鑑賞事業 1回実施		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	芸術家学校派遣事業の実施(7月、9月、11月に4校)		498
	能楽講座の開催(11月の上田城跡能と同時開催)		200
	子ども文化講座の開催(11月)		10
	子ども文化祭の開催(2月)		320
劇団四季こころの劇場の開催(10月・午前午後2回公演)		186	
目標の達成状況	下記の上田城跡能、子ども文化祭等の事業開催に当たっては、サントミュージゼの活用に努めました。 芸術家学校派遣事業を市内小学校4校で開催し、約900人(対前年比約200人増)の児童が金管四重奏・ウィーンの文化や音楽・落語・オペラとリユートを鑑賞しました。各事業公演後の子どもたちの感想文からは、大変感動した様子が伝わってきます。 上田城跡能にあわせサントミュージゼで能楽講座を開催し、小中学生65人(対前年比14人増)が能楽体験に参加(うち28人は舞台体験へも参加)し、古典芸能に親しむ機会となりました。 「サントミュージゼを体験しよう」をテーマに、子ども文化講座をサントミュージゼで開催し、小中学生等約220人(対前年比約60人増)が舞台体験や音響照明やバトンなどの舞台技術を学びました。 子ども文化祭をサントミュージゼで開催し、約600人(対前年比約50人増)が舞台発表・展示発表を行い、舞台経験、相互交流、運営参加を通して自己表現力を高める機会となりました。 劇団四季主催「こころの劇場」のミュージカル公演を市民会館で開催し、市内及び近隣市町村児童(小学6年対象)約2,000人(対前年比約100人減)が鑑賞しました。		

総合評価	A
------	---

今後の課題等	青少年が一流の芸術にふれ、豊かな情操を育むためには、長期的な展望のもと継続した取組が必要です。 また、今後もサントミュージゼと連携し、芸術鑑賞・体験機会を創出する必要があります。	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	子どもたちを育てるための事業が幅広く実施されていることを評価します。 芸術家派遣事業は、貴重な体験であり、多くの子どもたちが体験できることを望みます。 学校の音楽会をサントミュージゼで実施した学校があり、子ども達が生き生きと発表をしていた。他の学校の子どもたちにもこのような機会が与えられることを望みます。
	意見に対する考え方	今後も継続実施できるよう努めてまいります。 芸術家派遣事業や芸術家のアウトリーチ活動の実施により、小中学校在籍時に最低でも1回は体験できるようにしてまいります。 各学校がサントミュージゼを利用できるよう努めてまいります。
今後の方針等	サントミュージゼが実施している芸術家による学校へのアウトリーチ活動(出前授業など)と連携を図り、子どもたちが小学校、中学校在籍時に、それぞれ最低1回は学校において芸術鑑賞・体験ができるように努めます。	

平成26年度 事業評価シート

3 -

事業名	史跡等整備事業	担当課	文化振興課
-----	---------	-----	-------

当初目標	史跡等の整備を推進し、無形民俗文化財等の保護・継承を図ります。 史跡上田城跡復元整備及び用地協議 史跡上田城跡整備実施計画検討委員会の開催 史跡信濃国分寺整備事業（尼寺西側築地塀推定地調査） 市内遺跡発掘調査 市内文化財の保存・活用		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	上田城跡公園用地の取得にともなう協議及び補償料算定業務委託	1,735	
	検討委員会の開催（10月）及び復元資料の収集	592	
	史跡信濃国分寺整備事業（尼寺西側築地塀推定地調査）	7,000	
	開発に先立つ埋蔵文化財調査（市内遺跡）の調査及び報告書作成	2,000	
	無形民俗文化財後継者育成支援	540	
目標の達成状況	上田城跡公園内の民有地公有化に向け所有者と協議したが、価格面で買上げの合意に至りませんでした。 上田城跡整備実施計画検討委員会を開催しました（10月）。 史跡信濃国分寺跡発掘調査（尼寺西側築地塀推定地）を実施しました。 二中校舎改築にともなう三の丸発掘調査の整理作業を実施しました。 無形文化財後継者育成を支援し、補助を行いました。また、子どもたちが真田氏と上田城の歴史を学ぶための冊子、「信州上田真田氏物語」を市長部局とともに作成し、市内全小学校の児童・教職員に配布しました。		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	上田城跡については、大河ドラマ放送決定にともない、観光客の増加が見込まれるため、公園の利便性に配慮しながら、保存管理計画・整備基本計画に基づいた整備及び活用を早急に進めていく必要があります。 信濃国分寺跡については、住宅地と隣接しているため、住民への説明・報告を随時実施するとともに、史跡が市民に理解されるように整備を進めていく必要があります。 また、文化財に対する市民の認知度を高めることにより、市全体の保存・保護の意識が高まることから、今後も積極的な文化財のPRと活用が必要です。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	史跡上田城跡整備において、観光客の増加に対応した整備として、安全面への配慮とともに、上田城の面影など歴史的な側面を味わえるような、動線の確保などの検討を望みます。 真田丸の放送決定による盛り上がりもあるが、これが一過性にならずに、将来につながるような長期的な視点で事業が進められることを望みます。	
	意見に対する考え	上田城跡整備においては、史跡見学にふさわしく、かつ、観光客の増加に対応した動線が確保できるよう整備してまいります。 今後も「史跡上田城跡整備基本計画」に準拠し、史実に基づく計画的な整備を進めてまいります。	
今後の方針等	上田城跡については、計画に基づき、観光客の増加に対応した整備を進めます。また、発掘調査や史料収集を同時に進めます。 信濃国分寺跡については、史跡の説明看板を設置するほか、新たな整備計画策定の準備を進めます。 加えて、文化財に対する市民の認知度が高まるよう、文化財を活用した事業を推進します。		

平成26年度 事業評価シート

3 -

事業名	博物館における学習機会の提供	担当課	博物館
-----	----------------	-----	-----

当初目標	<p>郷土の文化・歴史、偉人の業績等を知る機会の創出として、郷土の文化・歴史、偉人の業績等をテーマとした特別展や講座（市立博物館5、山本鼎記念館3、信濃国分寺資料館9、ともしび博物館7）を、前年度とは異なる内容で開催します。</p> <p>市民を始め青少年が博物館等の関係施設を訪れる機会になるよう、施設をめぐるスタンプラリーを開催し、郷土の文化・歴史にふれる機会を創出します。</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	「濱村コレクション 能面・狂言面」（会期中入館者9,543人）	455	
	秋季特別展「信濃国分寺跡発掘50年」（会期中入館者1,130人）	488	
	上記以外に、各施設において企画展、講座等を開催		
目標の達成状況	<p>特別展・企画展として、信濃国分寺資料館では「信濃国分寺跡発掘50年」など、新たな企画展を開催したことなどにより、会期中の入館者数は昨年比で1割増となりました。博物館では「濱村コレクション 能面・狂言面」を、サントミューゼを会場に開催された「上田城跡展」と連携することにより、会期中の入館者数は昨年比で7割増となりました。また、企画展や講座の実施状況は、上田市立博物館6、山本鼎記念館3、信濃国分寺資料館8、ともしび博物館7となり、概ね当初目標を達成しました。</p> <p>上田市内博物館めぐりスタンプラリーは4月から9月まで実施（47人が参加）しましたが、10月からこのスタンプラリーは、観光課による「上田六文銭手形」に発展的に統合しました。また、博物館職員による出前講座、小中学校の博物館における歴史学習支援等により、地域の文化・歴史にふれる機会を創出しました。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>大河ドラマ「真田丸」が平成28年に放送されることが決定し、博物館内や上田城櫓の展示の充実が急務となっています。特に、山本鼎記念館が閉館し建物は博物館の別館となることから、別館における展示の充実も求められています。このことを全国にPRする好機としてとらえ、様々な手段により、真田氏や上田城の歴史を市民、観光客に理解していただく取り組みをする必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>充実した企画展を開催するとなると、現在の職員数、予算では対応が難しいと考えます。さまざまな行政課題があるなか、人や予算の増は容易ではないが、長期的には必要であると考えます。これが、充実した企画展につながり、市民にとっても、これまで触れることができなかったものを学習することができるようになると考えます。</p> <p>上田城跡から柳町を經由して、池波正太郎真田太平記館を訪れる観光客も多い。博物館と池波正太郎真田太平記館が連携して、双方の利用者が増加するような取組が必要と考えます。</p>	
	意見に対する考え	<p>充実した企画展を開催し、市民の学習機会をより多く提供するためにも、適正な人員及び事業費の確保について検討してまいります。</p> <p>現在、共通券（ミュージアムパスポート）の発行、互いの企画展等の情報提供などを実施しているが、今後も連携した企画展の開催や広報活動についても検討してまいります。</p>	
今後の方針等	<p>博物館・城櫓の展示施設の更新をするとともに、上田城郭のジオラマ製作・上田城に関する映像製作・展示用レプリカ製作を実施します。また、真田氏関連の企画展示を実施します。さらに、市民や観光客のニーズ対応した公開講座を含めた講座等を開催し、より深く上田の歴史文化を知っていただくための機会の創出に努めます。</p>		

平成26年度 事業評価シート

4 -

事業名	社会教育施設整備事業	担当課	生涯学習課
-----	------------	-----	-------

当初目標	西部公民館の建替に向け、建替用地を検討するとともに、地域住民・利用者団体などと整備計画について検討します。 24年度に実施した耐震診断結果に基づき、神川地区公民館の耐震補強工事又は移転改築について検討します。 上田図書館の整備に向け、建設地や規模等について検討します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	西部公民館の建替に向けた検討		0
	神川地区公民館の整備に向けた検討		0
	上田図書館の整備に向けた検討		0
目標の達成状況	西部公民館、神川地区公民館、上田図書館の各施設整備について、他の公共施設整備との調整が必要であることから、関係部局と個別の調整・検討を進めました。 その結果、西部公民館については、27年度から事業に着手することとなり、旧上田警察署跡地を長野県から取得する経費等を27年度予算に計上しました。		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	豊かな生涯学習社会の実現に向け、老朽化等が進む社会教育施設について、引き続き計画的な整備を行い、生涯学習環境の充実を図っていくことが必要です。 西部公民館の建替 神川地区公民館の整備 上田図書館の整備		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	上田図書館の具体的な整備方針は、今後検討することになるが、中心となる図書館であり、十分議論をして整備計画が策定されることを望みます。 年数とともに、施設の老朽化が進むが、計画的に整備が進められることを期待します。	
	意見に対する考え方	「上田市図書館基本構想」の改定の手続きを来年度以降予定しています。第二次上田市総合計画、生涯学習基本構想の策定を待って、新たな図書館基本構想を策定し、その中で検討してまいります。	
今後の方針等	西部公民館については、建替用地を取得するとともに、地域住民などと整備計画について協議を進め、基本・実施設計を実施します。 神川地区公民館については、地元要望や地域内分権のまちづくり拠点となる可能性を踏まえ、別の場所に移転し、神川統合保育園等、他課の事業とあわせ整備する方向で、引き続き関係部局との調整・検討を進めます。 上田図書館については、場所を含めて整備に関する検討を進めます。		

平成26年度 事業評価シート

4 -

事業名	地域が学校を支援する事業	担当課	生涯学習課
-----	--------------	-----	-------

当初目標	公民館等を核とした地域が学校を支援する仕組みを更に2校以上へ拡大していきます。(8校 10校以上)		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	地域による学校支援の実施(しおだっ子応援団ほか)	192	
	学校職員や公民館職員等が学社連携意見交換会に参加し懇談	0	
	学社連携事業の先進地を視察(地域住民・公民館職員等)	0	
目標の達成状況	<p>公民館等を核として従来から行われている8校の学校支援に加え、学校側との情報交換や協議を通じて、新たな学校支援が のとおり始まったことにより12校に拡大しました。</p> <p>北小学校では、クラブ活動支援等を実施 神科小学校では「おたすけっ十有志隊」、豊殿小学校では「豊殿ガンバ応援団」が発足し、学習や行事等の支援を実施 第六中学校では、1年生の授業中の見守り・声かけ支援を開始</p> <p>丸子地域、川西地域及び中央公民館地域では、公民館だよりを通じて、学校支援ボランティアを募集 城南公民館では、上田城南地域協議会(子育て部会)が行った「地域住民による学校支援の取組」のアンケート結果を踏まえ、今後の進め方について公民館と地域協議会で学校側と懇談を行う予定</p> <p>公民館が仲介し、豊殿小学校と信州大学繊維学部の学学融合事業として「豊殿サイエンスキッズ」プロジェクトを新たに実施</p>		

総合評価	A
------	---

今後の課題等	<p>地域が学校を支援する取組を更に拡大していくことが必要ですが、既に実施している学校と、今後導入していく学校が混在しており、学校ごとに支援内容が更に複雑化していく懸念があります。</p> <p>支援が長期になるとボランティアが減少する傾向にあることから、地域住民が主体的かつ継続的に学校支援ボランティアに参加し、地域と学校がともに子育てをするという意識を醸成していくことが必要です。</p> <p>コーディネーターの育成とともに支援体制を構築していくことが必要です。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>この事業は、学校教育課と生涯学習課の2つ所属が関係するが、連携を強化して、事業がより前進することを期待します。</p> <p>信州型コミュニティスクールに対応できる、地域コーディネーターをどのように養成するかが課題だと考えます。平成29年度から信州型コミュニティスクールを全校で導入するためには、相当な準備が必要であると考えます。</p> <p>地域コーディネーターの養成においては、一定の財政的な支援が必要であると考えます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>学校教育課との連携をより進めてまいります。</p> <p>信州型コミュニティスクールについて、学校や地域の実態に寄り添った取組が重要と考えております。コーディネーターの養成では、今年度より県の生涯学習推進センター養成講座に、関係者が参加いただいております。</p> <p>コーディネーターの位置付けや予算措置等について、今後検討してまいります。</p>	
今後の方針等	<p>それぞれの学校が求める支援のニーズを把握するため、学校との情報交換の機会を増やし、公民館等と学校の情報の共有や信頼関係の構築に努めます。</p> <p>学校支援に意欲を持っている地域の人材を発掘し、研修への参加等を通じてボランティアやコーディネーターの育成に努めます。</p>		

平成26年度 事業評価シート

4 -

事業名	青少年育成関係団体の連携	担当課	生涯学習課
-----	--------------	-----	-------

当初目標	市内9公民館地区において、青少年育成関係団体が連携するための組織づくりを進め、地域ごとに青少年育成の課題解決を図るための協議の場を設けられるよう支援します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	青少年育成関係団体の連携		0
	青少年育成関係団体の連絡会の開催		0
目標の達成状況	<p>市内9公民館中8公民館において組織化し、青少年育成関係団体の連絡調整、課題解決に向けた連携を図るとともに、青少年育成市民のつどい等を開催しました。</p> <p>残り1公民館においては、組織化に向け関係団体と調整中で、次年度にはすべての公民館で組織化が完了する予定です。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	組織化については28年度に完了する予定であることから、今後は組織の継続を図るとともに、関係団体だけではなく地域住民も交え、地域全体における青少年育成の機運の醸成を図っていくことが必要です。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	公民館を核とした青少年育成の仕組みが、都市部に比べて充実していることを評価します。青少年育成団体が連携するための組織づくりが進んでいるので、今後は、それが十分機能するよう取組が進むことを期待します。	
	意見に対する考え方	今後も、地域全体で青少年育成の体制づくりを進めていくために、各自治会単位、ブロック単位、公民館地区単位での連絡会・推進会議等を組織し、学校との連携を深めるとともに、組織が十分機能するよう取組を進めてまいります。	
今後の方針等	関係団体による連絡調整だけではなく、公民館も一体となり、幅広く地域住民に周知を行い、地域住民も交えた青少年育成に関する研修会や講演会等の開催に努めます。		

平成26年度 事業評価シート

4 -

事業名	人権同和教育推進事業	担当課	生涯学習課
-----	------------	-----	-------

当初目標	<p>人権施策基本方針に基づき、学校、家庭、地域、企業、職員に対する人権同和教育・啓発を推進します。 講演会と研修会を780回以上、参加者は35,000人以上を目標に開催し、市民の人権意識の更なる向上を図ります。</p>		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	学校人権同和教育		3,916
	地域人権同和教育		6,111
	社会教育団体等人権同和教育の推進		871
	企業人権教育の推進		200
	解放子ども会事業		630
目標の達成状況	<p>学校、地域、団体、企業等全体で、講演会と研修会を792回、参加者37,876人が参加し、市民の人権意識の更なる向上を図りました。 人権啓発担当者研修会には、市内の各種団体や各学校のPTA、保育園・幼稚園の保護者が参加し、地域のリーダーとなるべく人材の育成を目的とした取組も実施しました。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>平成25年2月に同和問題に関わる差別事象が発生し、その後も相談案件が生じていることを受け、教育啓発における同和問題は人権課題の大きな柱であると考えています。また、市民一人ひとりの人権が尊重され、日常生活の中で人権に配慮した具体的な態度や行動に現れるよう人権同和教育と啓発を推進していく必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>人権同和教育の研修会・講演会は、継続的に実施されており、内容も充実している。ただ、参加者が自治会役員などに固定化される傾向にあるため、自治会の人権同和教育推進員の力も借りて、講演会などの開催の周知方法を工夫し、より多くの人に参加してもらえるような取組が必要であると考えます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>各公民館の社会教育指導員や各自治会から選出していただいている人権同和教育推進員等と協力し、研修会等のテーマや内容が魅力あるものとなるよう取り組みます。 また、より多くの地域住民が自ら進んで参加できるよう、研修会等の周知の方法についても検討してまいります。</p>	
今後の方針等	<p>地域、学校、企業等で行う研修会等において、それぞれの課題に合わせた実効性のある取組となるよう検討します。また、公民館等と連携して内容を工夫し、参加者の人権意識の向上につなげます。 講演会や研修会の開催については、市民意識調査（24年度実施）の結果からも啓発活動の方法として効果的であるされていますので、これまでどおり教育と啓発活動の中心に据えて推進します。</p>		

平成26年度 事業評価シート

5 -

事業名	生涯スポーツ活動の推進	担当課	スポーツ推進課
当初目標	<p>市民のスポーツへの関心や参加意欲を促進するため、スポーツに関する情報を発信します。</p> <p>だれもが気軽にスポーツに親しめる機会を増やすため、スポーツイベントや教室を開催します。</p> <p>総合型地域スポーツクラブを育成支援するため、活動状況について情報提供します。また、協働イベントや意見交換会を開催します。</p> <p>競技力向上を図るため、体育協会や全国大会出場者に対して支援します。</p>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	「上田スポーツプレス」(6回)、「広報うえだ」(76回)へ情報掲載	300	
	こころのプロジェクト「夢の教室」開催(5校、13クラス、383人)(2校増)	1,379	
	スポーツイベントの開催(24事業)	14,730	
	スポーツ教室の開催(58教室)(1教室増)	6,569	
	体育協会への補助、競技大会出場奨励金(26件)、市長表彰(8件)	24,358	
目標の達成状況	<p>「広報うえだ」等の媒体を活用し、スポーツ団体の活動内容やスポーツ関連情報の提供、「夢の教室」の開催を積極的に進め、スポーツに対する関心や参加意欲を促進しました。</p> <p>スポーツイベントや新たなスポーツ教室(合気道教室)を開催するとともに、新たに自然環境を活用した「太郎山登山競走」について民間と連携し開催に向けた検討を行いました。</p> <p>スポーツクラブ協働イベントについては、スポーツとふれ合う機会の少ない方の参加促進について検討したが、イベント実施には至りませんでした。</p> <p>全国大会出場者を奨励金で支援するとともに、体育協会も講演会「一流選手から学ぶ目標達成へのプロセス」を開催し、競技力向上に努めました。また、競技大会の上位入賞者を市長表彰し、広く市民にその活躍の周知を図りました。</p>		

総合評価		B
今後の課題等	<p>「健幸都市うえだ」を目指し、市民が気軽にスポーツに親しみながら健康・体力づくりができるように、スポーツに関する情報提供や地域スポーツ団体(体育協会やスポーツクラブ)と協働したスポーツイベントを開催する必要があります。</p>	
上田市の意見	<p>スポーツイベントを工夫して開催しているようであるが、新たな参加者の増加は容易ではない。健康づくりチャレンジポイント制度を活用して、普段スポーツをやらない人も、参加してもらえるよう取組が進むことを期待します。</p> <p>上田地域広域連合の事業で、スポーツイベントの参加者増において成功している例もある。広域連携も図り、魅力的なイベントとするなどして、参加者数が増加することを期待します。</p> <p>イベント等への参加者増を増やす取組も大切であるが、事業の内容、参加者の満足度なども含め評価をすることが必要であると考えます。</p>	
意見に対する考え方	<p>26年度に民間とともに開催を検討していた新たなイベントである「太郎山登山競走」は、平成27年5月に開催することができました。今後も体育協会・スポーツクラブ・スポーツ推進委員会等のスポーツ団体の連携を深めるとともに、健康づくりチャレンジポイント制度も活用して、新たな人に参加してもらえるような取組を進めていきます。</p> <p>広域連携については、上田地域定住自立圏の7市町村間で、お互いに開催イベントの周知を図るようにしています。今後も関係市町村からの参加者数の増加を目指します。</p> <p>一部のイベントについては現在も、参加者からの評価を頂いているが、他のイベントについても今後、参加者の意見等を把握し事業内容に反映することを検討します。</p>	
今後の方針等	<p>健康づくりチャレンジポイント制度を活用し、スポーツイベントやスポーツ教室の参加者の拡大に努めます。</p> <p>体育協会やスポーツクラブを生涯スポーツ社会の推進と健康推進を図るパートナーと位置づけ、市内のクラブ間の連携を図り、協働で市民の健康づくりを図るイベントの開催を検討します。</p>	

平成26年度 事業評価シート

5 -

事業名	スポーツ施設整備基本構想策定事業	担当課	スポーツ推進課
-----	------------------	-----	---------

当初目標	上田市全体のスポーツ施設整備計画を策定するため、関係団体等の意見を踏まえ、スポーツ施設整備基本構想策定に向け原案を検討します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	スポーツ施設担当者会議の開催		0
	関係団体とのスポーツ施設整備検討会の開催		0
	スポーツ施設先進地視察の実施		34
目標の達成状況	<p>担当者会議では、各施設の利用状況や運営経費について検証しました。</p> <p>スポーツ関係団体との意見交換や検討会では、2027年に長野県での開催が予定されている国民体育大会も見据え、新設アリーナの規模や場所の検討等、共通認識を持ち、整備構想を策定する方向性を確認しました。</p> <p>先進地視察として、県内の芝生グラウンド及び富山県内の総合体育館を視察し、スポーツ施設整備方針の参考としました。</p>		

総合評価	C
------	---

今後の課題等	施設の規模や整備場所等に関する方向性について、関係者間で共有していく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>上田市の核となる体育館が必要であると考えます。国民体育大会の主要な競技を誘致し、上田地域の子どもたちが、素晴らしい競技を見ることができる環境整備を期待します。</p> <p>施設整備の検討においては、長野県における次の国民体育大会の競技種目の誘致も想定し、進められることを期待します。</p> <p>また、競技団体をはじめ、幅広い意見を取り入れて進められることを望みます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>上田市の中心にある城跡公園体育館の老朽化が最も進んでいます。担当課では、スポーツ施設整備基本構想を策定中ですが、城跡公園体育館と第二体育館を1つにして、核となるような体育館を整備したいと考えています。規模としては、全国大会の誘致を視野に入れながらも身の丈にあった規模で考えています。今後、施設整備構想については、競技団体のみでなく、幅広く意見を求めていきます。</p>	
今後の方針等	スポーツ推進審議会や上田市体育協会などの関係団体と連携を図りながら、27年度中に施設整備基本構想を策定します。		